

8月20日：VN指数は大幅反落、売買代金は16億米ドル超

週末のベトナム市場は軟調な動きとなり、外国人投資家は売り越しに転じた。

ホーチミン市場のVN指数は3.3%（45.42ポイント）安の1,329.43ポイントで引けた。

7月19日以来の大きな下げ幅となった。

同指数は前日、大引けにかけ複数の銘柄に買いが入り反発していた。

しかし本日は値下がり銘柄数が値上がり銘柄数を上回り、302銘柄が下落、75銘柄が上昇、31銘柄は変わらずだった。

出来高が急増し、売買高は12億株、売買代金は38兆4,000億ドン（16億8,000万米ドル）を超えた。

再び市場全体に売りが大きく広がり、投資マインドを冷え込ませた。

VN30指数も3.63%（54.56ポイント）安の1,450.45ポイントで取引を終えた。

同指数採用銘柄のうち、30銘柄全てが売られたが、ストップ安はなかった。

6.06%安の97,700ドンだったビンググループ（VIC）は、値下がり寄与度でトップとなった。

それに続き、ベトコムバンク（VCB）が2.63%安、ビンホームズ（VHM）が2.61%安、ベトナムゴム工業グループ（GVR）が6.31%安、テクコムバンク（TCB）が4.72%安となった。

他にも、VPバンク（VPB）、ヴィエティンバンク（CTB）、サコムバンク（STB）、ホアファットグループ（HPG）、マサングループ（MSN）、ビナミルク（VNM）、サイゴンビール・アルコール飲料（SAB）、モバイル・ワールド・インベストメント（MWG）、ペトロベトナムガス（GAS）といった多くの主力株が売られた。

しかし、ビグラセラ（VGC）が7%のストップ高をつけ終値35,050ポイントとなるなど一部の銘柄は引き続き買われた。

ペトロベトナム化学肥料（DPM）+3.58%、ペトロベトナム・カマウ肥料（DCM）+1.07%といった農薬関連銘柄も堅調な動きを見せた。

ハノイ市場の HNX 指数も 2.31%安の 338.06 ポイントで週末の取引を終えた。

売買高は 2 億 8,070 万株を超え、売買代金は 7 兆 600 億ドンとなった。

その一方で、外国人投資家はホーチミン市場で 7,550 億 9,000 万ドンを売り越した。

しかしハノイ市場では 643 億 7,000 万ドンを買い越した。

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利は JSI に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。